

2010年度 関西学院 聖和幼稚園 学校評価を終えて

聖和幼稚園は、今年度創立 119 年目を迎えますが、この歴史の中で子どもたち一人ひとりの命・個性を大事に育てるキリスト教保育を、脈々と受け継いで行ってまいりました。そして、昨年度の法人合併により初等部・中学部・高等部と連携をとることで、さらにキリスト教教育の異年齢での育ちを確認しながら、より深い見識をもって学校評価を行うことができるようになりました。

そこで、今年度は、評価項目を「学校評価ガイドライン」に示された 12 項目より「教育課程・学習指導」、「保健管理」、「安全管理」、「教育環境整備」、「子育て支援」の 5 項目に選定しました。

各項目については、昨年度と同様に教員と保護者にアンケート調査を行いました。また新たに、客観性をもたせるため、聖和短期大学教員、評価情報分析室教員による「学校関係者評価」を導入し、より透明性の高い評価になるように改善いたしました。

結果、我々が大事に考えているキリスト教保育・児童中心主義的保育のあり方については、昨年同様高評価を得ることができました。しかしながら、この評価に慢心することなく謙虚に保育内容を省察し、一人ひとりのレベルでより良い教育を追求してまいりたいと思います。

「保健管理」、「安全管理」、「教育環境整備」に関しては、細かな問題点も見出されましたので、改良・改善していきたいと考えています。

試行的に行った「子育て支援」におきましては、高評価を得ており、より充実した事業になるよう努力する所存であります。

ここで、再度、この学校評価が、評価のための評価に終わらないように、今後も保育者一人ひとりが、根本原則であるキリスト教保育の研鑽に努めてまいります。どうぞよろしく願いいたします。

2011年3月25日

関西学院 聖和幼稚園
園長 出原 大

学校評価シート

【教育課程・学習指導】

現状の説明

- キリスト教保育の根幹である愛情を感じられる教育の実践
聖和幼稚園では、神から命・個性を与えられている子どもたち一人ひとりを大事に守り育てていくキリスト教保育を行っている。保育者もキリスト教保育を実践することに使命感を持って日々の保育に努めている。
- 各領域に主体的に取り組む姿勢を培う援助
聖和幼稚園の教育課程3つの柱を要約すると「子ども自身が、何事にも意欲的、主体的に取り組む自律的な精神を養うとともに、お互いの個性の相違や多様性を認めながら育ちあうことのできる思いやりの心を育む」ということを謳っている。そして、保育者は、子どもたちの興味・関心が高まり、意欲的になることを願って一人ひとりに添った援助に努めている。
- 自然教育の実践重視
1980年代後半より幼稚園周辺である甲東、上ヶ原地区も他の都市部周辺地域と同じように、宅地造成、自動車社会の興隆などによって戸外での遊び場が減少してきた。殊にこの影響で、子どもたちの自然環境での遊び場は激減した。人は自然の一員という立場で自然教育の重要性を感じている聖和幼稚園では、人・子どもは自然環境の適者として、その中で遊ぶことにより心身の健康・恒常性を保つと考え、また、子どもは幼少期の感覚器・五感が一番鋭敏かつ発達する時期に、自然環境にて自然物に触れて生きる力の源泉が育まれていくと考えている。そこで、1980年代後半より、この子どもたちの自然離れを鑑みて園庭・自然環境を見直し、子どもたちが身近に触れられるように樹木・草本類を多種植栽した（植物環境を充実させると昆虫、野鳥などが多く集まる生態系が形成されていった）。
二十数年に亘るこの取り組みにより、現在は、園内の豊かな自然環境の中で子どもたちは、仲間と共に大いに自然環境に触れて元気に、また、感性もしっかりと育まれてきていることの確認をしている。

評価・分析（アンケート結果を含む）

- キリスト教保育の根幹である愛情を感じられる教育の実践
アンケートでは、キリスト教保育の保護者の評価は98.1%が肯定的であり、「一人ひとりが受け止められている」と認めた数値が結果に表れている。しかし、保育者全員が「強くそう思う」と回答しているのに対して、わずかながら「あまりそう思わない」保護者がいる。
- 各領域に主体的に取り組む姿勢を培う援助
保育者の援助が功を奏して、本年度も子どもたち一人ひとりのレベルで、園生活の中で自主的、意欲的に活動する姿が確認できた。
この子どもたちの様子、いきいきとした表情、感想、保育者との懇談等により、96.9%もの保護者が肯定的に回答するほど幼稚園を信頼し、高く評価してくれている。
- 自然教育の実践重視
保護者アンケートの「子どもたちが身近に自然環境に触れられるようにして、感性が育まれるように保育している」という質問に、98.7%が肯定的に回答している。昨年度同様、高い数値であることから、聖和幼稚園の豊かな自然環境における保育を望み、そして、入園後も子どもたちが、幼稚園の園庭でいきいきと遊び、

元気・健康に育ち、五感を十分に使い、感性が育まれていることを認めた結果がアンケートに出ている。

改善の具体的方策

- キリスト教保育の根幹である愛情を感じられる教育の実践
「幼稚園は、子どもたち一人ひとりを受け止めて保育をしている」で、年中組に2名、年長組に1名「あまりそう思わない」と回答した保護者がいる。割合としては1.9%と低いですが、キリスト教保育の根幹である一人ひとりの観点からも更なる努力が必要であると考えます。そして、現在実践しているキリスト教保育の根幹を忘れず、子どもたち一人ひとりの心に添った愛情深い実践を心掛けたいと考えています。
- 各領域に主体的に取り組む姿勢を培う援助
今後もこの信頼関係を大事に、子どもたち一人ひとりが主体的に活動できる保育をしていきたいと思っています。
- 自然教育の実践重視
この結果に慢心することなく、今後もこの生きる力に繋がる自然環境作りを充実させていき、援助においても一人ひとりの子どもたちに共感しつつ自然体験を重視していきたいと考えています。

学校関係者による評価

- キリスト教保育の実践は、聖和幼稚園の最大の特色であるとともに、使命でもあります。それについて、保育者が誇りと喜びを持って日々の保育を行っていることは評価できます。
- 「一人ひとりを受け止めて…」については、保育者全員が「強くそう思う」だったのに対して、保護者の回答には「どちらかといえばそう思う」が45.3%、「あまりそう思わない」が1.9%ある。しかし、これはある意味で自然な数字であり、たえず保育者が自分の保育を振り返る謙虚さをもつことが肝要だと思われまます。
- 子どもが、日々幼稚園の自然の中で生活できるよう環境が整えられ、豊かな遊びが提供されていることはおおいに評価できます。
- 自然教育によって「感性が育まれている」と分析されています。感性の教育は今日とても重要だと思いますが、その内容についてさらに深く分析することが期待されます。
- 『幼稚園における学校評価ガイドライン』（文科省）の「教育課程・指導」にあるその他の項目についても重要なものがあるので、今後取り組んでいくことが求められます。
- 教育課程・教育方針は、一般に理解されやすいように明確にしており、その内容を保護者に発信する努力が継続的に行なわれていることが評価できます。
- 評価・分析において、自然教育の実践重視の項目では、保護者の肯定的な回答が多く、聖和幼稚園の取組みが順調に進展していることが伺われます。評価・分析内容は昨年度とほぼ同じという点から、現状維持であることが伺われます。アンケート結果にて、保護者から高く評価されていますが、学習指導充実のため、評価・分析の内容や方法を検討することも今後の課題とすることを期待されます。
- 改善の具体的方策において、アンケートの結果、肯定的でない回答に対して、改善を考える場合、保護者の理解を深めるために、保護者に対する具体的な方策の検討が期待されます。具体的方策は、昨年度同様の内容ですが、現状の説明では

ないでしょうか。改善の方策をより具体的に、どのような援助を行なうのか、園全体でどのような取組みをするのか等、具体的な内容検討をすることが期待されます。

- 今後、指導計画についての次年度に向けての具体的な方策を検討していくためにも、現状の説明を記載することを期待されます。
- 教育課程及びその実践については、保護者からも高く評価されており、優れていると思います。一層の持続的な取組みをしてください。自然教育の重視は良いことと思います。
- 教育内容に関するアンケートで高評価を得ていることを評価します。教育課程の3つの柱はホームページ等で公表されているのでしょうか。公表されていないでしたら公表することを期待します。
また、他の柱に基づく教育課程の編成は行われていないのでしょうか。
- 自然教育の実践を重視しているのはユニークであり、特色であると思われます。そのことはまた、環境面からの持続可能性を配慮した取組みであり、評価します。
- しっかりした教育課程・指導計画が作成されており、その成果がアンケート結果に繋がっているのでしょうか。
- まず現状説明において、3つの教育方針を掲げていること、それらをホームページやパンフレットで周知していることを説明する必要があるでしょう。その上で、それぞれの活動について説明する方が好ましいと思います。
- 現状の説明では、自然教育の実践重視以外は概念的な説明で、活動内容がよく分かりません。厳しく言えば、「努めている」と言っても、どう努めているか分かりません。何をしているかを説明する必要があるでしょう。

学校関係者による評価を受けての追加記述

学校関係者による評価を受けて、現状の説明、改善の具体的方策を追加記述します。

< 現状の説明 >

- 保育者は指導計画として年間、月、週、1日の計画を立案し、実践に取り組み、日々保育を省察している。また、学期ごと、年度末には保育全体を振り返り、次学期、年度に向け話し合いを持っている。一つひとつの取組みに関しては、子どもたちにとって本当に必要なのか、なぜ必要なのか、ゼロから話し合いを持っている。
- 聖和幼稚園の教育方針、教育課程の柱は、
 - ①子どもたち一人ひとりが、イエス・キリストによって示された神様の愛に気づき、自らがかけがえのない存在であることを知り、喜びと感謝を持って過ごす。
 - ②お互いの個性や多様性を認め合い、自主性、創造性を発揮して共に育ち合う。
 - ③神様の創造された自然の中で心と体を存分に使って遊び、健康的な心身を育み、豊かな感性を培う。であり、ホームページ、パンフレットで公開している。
なお、現状の説明での記述は②についての解釈である
- 活動内容は、毎月の「学年だより」で月の目標、具体的な活動内容、先月の子どもの姿を保護者に伝えている。

< 改善の具体的方策 >

- 教育課程、実践については保護者から高く評価されているが、今まで同様に、保育内容・子どもへの援助について保護者の理解を得るために、保護者とよいコミ

コミュニケーションをとる。

- 「教育課程・指導」のアンケートの質問項目、分析の内容、方法については、今後、評価情報分析室と検討していく。

学校評価シート

【保健管理】

現状の説明

○日常の健康管理、疾病予防の取組

園側は、年度初めに子どもたちの保護者に生活調査表（年度ごとに記入のもの）の記入をお願いし、一人ひとりの事前の健康状態の把握に努めている。

保育者は、子どもたちが登園してくると一人ひとりの健康状態を把握し、保育中も適宜心身の健康状態を見ながら保育を行うようにしている。また、保護者とも、登降園の際に子どもの健康状態について連携をとり、健康管理を行うようにしている。

○園医、看護師との連携による健康管理、疾病予防の取組

園医が年1回の健康診断を行っている。また、流行性の疾病対応など、園医より随時丁寧な情報提供と指導を受けている。

園医は、保護者会を対象にAEDの使用について、心肺蘇生法、救急法等の講習会を1学期に実施している。また、園医の医院にて配布されている院内月刊誌を園内掲示板に貼り出し、情報を公開し伝達している。

看護師は、日々、園児の欠席状況、理由を把握し保健日誌に記録している。また怪我の手当、与薬など適切に行い、同様に保健日誌に記録している。病院に連れて行くかどうかのアドバイスをもらうようにしている。

○家庭、地域、保健・医療機関との連携による健康増進

園医は、地域の小児科医であり随時丁寧な情報提供と指導をうけている。また、西宮市消防署にはAED講習会での備品を借用し、講習内容を確認している。

西宮市教育委員会、兵庫県健康増進課、西宮市健康福祉局保健所健康増進グループ、園医（園医は地域で小児科を開業している）よりの予防、対処情報、予防接種の情報が伝達され、園内の掲示板にてそれらの情報を公開し、伝達している。

評価・分析（アンケート結果を含む）

○日常の健康管理、疾病予防の取組

アンケート結果より、「幼稚園は、子どもたちの心身の健康状態を把握して保育している」という質問に保護者の92.5%が肯定的に回答していることから、一定の評価が得られているといえる。しかし、「強くそう思う」と回答したのは保育者の89.5%に対して、保護者は36.5%であった。この差異は、登園時、保育中の健康状態の把握、うがい・手洗い・換気等の疾病予防の取組について、実際行っていることの理解が得られていないことが考えられる。

○園医、看護師との連携による健康管理、疾病予防の取組

今回、保護者のアンケートにおいて本項目の「幼稚園は、園医、看護師と連携して子どもたちの健康管理、疾病予防に努めている」という質問で、昨年度は、肯定的な回答が83%であったのに対して、90.0%の保護者が肯定的な回答をしている。昨年度の改善の具体的な方策としての、口頭での伝達、掲示板等により情報公開をしてきたことが、改善の結果として表れていると考えられる。

○家庭、地域、保健・医療機関との連携による健康増進

保護者のアンケートにおいて本項目の「幼稚園は、医療専門機関からの情報公開・伝達等をしている」という質問で、昨年同様肯定的な回答が83.0%と低くなっている（昨年度は82%）。昨年度の改善の具体的な方策として、今年度は情報公開の周知を図ってきたが、結果として表れていないと考えられる。

改善の具体的方策

- 日常の健康管理、疾病予防の取組
今後もこの体制を維持、強化して臨む。
- 園医、看護師との連携による健康管理、疾病予防の取組
口頭での伝達、掲示板等により情報公開をしてきたことが、改善の結果として表れていると考えられるので、今後も継続して行っていく。
- 家庭、地域、保健・医療機関との連携による健康増進
次年度も、この状況を解消するために、今年度同様公開している情報の周知徹底を図る。

学校関係者による評価

- 保健管理について幼稚園が積極的に取り組んでいることが、アンケート調査結果にも表れており、改善が進んでいます。
- 子どもの健康管理については、幼稚園側だけでなく、保護者の認識や意識が大切です。自分の子どもの健康管理のみならず、集団における子どもたちの健康管理への意識・感染症等に関する知識を高めるような保護者への取り組みが望まれます。
- 日々の保育の中で、子ども達の健康状態を把握し、登降園時に、保護者との連携を密にとっていることが評価できます。昨年度の具体的方策において、「ようちえんネット」にて情報公開する方策を述べていますので、現状説明の中に加えることも必要と思います。
- 評価・分析において、「幼稚園は、子どもたちの心身の健康状態を把握して保育している」の質問に対する保護者の回答と保育者の回答との差異を、本校が疾病予防の取組について実際に行っていることへの理解が得られていないと分析していますが、これまでの保護者の回答から、疾病予防の取組への保護者理解はあると感じます。保護者が求める「子どもたちの心身の健康状態を把握して保育する」とは具体的にどのようなことかを確かめることも改善につながるのではと思います。
- 「園医、看護師との連携による健康管理、疾病予防の取組」において保護者への伝達が改善されたことは評価できます。同様の方策で「家庭、地域、保健・医療機関との連携による健康増進」を取り組み、改善が現れなかったのはなぜかその原因を探り、より具体的な方策を検討されることを期待します。
- 保育者に対するアンケート「幼稚園は、幼児の健康のために、保健・医療の専門知識を専門機関から進んで得ている」の「強くそう思う」の回答が、昨年、今年共に低い理由についての分析・検討の必要があると思われます。保育者全体で専門知識を習得、向上、共有していく園全体の学習会などの機会を具体的方策の中で検討されることが望まれます。
- 園児の保健管理の体制は整えられていると思われます。ただ、大事なことであり、また、保護者の関心も高いので、一層の努力とこれに関する保護者とのコミュニケーションの充実をさらに図っていくことが期待されます。
- アンケート項目「幼稚園は、子どもたちの心身の健康状態を把握して保育している」での保育者と保護者の回答結果の差に対する考察をされておきながら改善の具体的方策に記されていないのは残念です。
- アンケート項目「幼稚園は、幼児の健康のために、保健・医療の専門知識を専門機関から進んで得ている」に対する保育者からの評価が一番低いとその事に対する評価はどのようなものでしょうか。

- 改善の具体的方策で、「日常の健康管理、疾病予防の取組」の項において、「今後この体制を維持」とありますが「この体制」とは何か判りづらい。
- 改善の具体的方策で、「園医、看護師との連携による健康管理、疾病予防の取組」の項において、「口頭での伝達、掲示板等により情報公開をしてきたことが、改善の結果として表れている」とのこと。これはまさに改善の結果であることが評価できます。しかし、「家庭、地域、保健・医療機関との連携による健康増進」の項では、情報公開の周知結果が表れていないとのことで、矛盾した評価となっています。この項での評価結果は情報公開によるものかの分析が必要と思われます。
- 保健管理に気を配られていることが分かります。
- 「改善の具体的方策」においては、特に、日常の健康管理、疾病予防の取組について、評価・分析において課題が示されているにもかかわらず改善策が書かれていません。また、評価の低かった家庭、地域、保健・医療機関との連携も具体策が必要でしょう。

学校関係者による評価を受けての追加記述

- 学校関係者による評価を受けて、評価・分析、改善の具体的方策を追加記述します。
- <評価・分析>
- 現在の園医は、地域の医師、医療機関である。「園医、看護師との連携による健康管理、疾病予防の取組」が改善しているのであれば、「家庭、地域、保健・医療機関との連携による健康増進」も同様の改善の結果が得られると考えられるが、そのような結果ではなかった。
- <改善の具体的方策>
- 集団生活での健康管理の意識・感染症等に関する知識を高めるような保護者への取り組みは、効果ある方策を園医と相談する。
 - 今後も現在行っている日常の健康管理、疾病予防の取り組みを維持、強化し、具体的に行っている日常の健康管理、疾病予防の取り組みを保護者に伝達する。
 - 「家庭、地域、保健・医療機関との連携による健康増進」のアンケートの質問内容を具体的に示し、調査をする。
 - 幼児の保健・医療の専門知識の習得、共有するために、園医を招いての研修会を行う。

学校評価シート

【安全管理】

現状の説明

事故や緊急事態発生時の適切な対応

聖和幼稚園は、現時点で事故、緊急事態に備えて以下の対応を考えている。県警ホットラインを職員室・ホールに設置し、緊急時にはすぐに連絡ができるようにしている。また、キャンパスを総括管理する西宮聖和キャンパス事務室と常に連絡がとれる状態にあり、適切な指示を仰いで対応するようにしている。目に見えるところでは、警備員が定期的に幼稚園を含めた西宮聖和キャンパス内を巡回している。駐車場内においても、登降園時は警備員が立ち安全に配慮している。原則、園長もしくは副園長が登降園時には幼稚園の正門に立ち、子どもたち、保護者の安全を確認している。

園内環境の安全点検

聖和幼稚園では、毎朝保育前に保育者によって園舎・園庭の安全確認を行っている。特に園庭は、保育者がグループに分かれて小屋や遊具の安全点検、及び不審物、不審者の存在がないかを確認している。また、危険な箇所、安全に欠ける環境に関しては、西宮聖和キャンパス事務室と相談して早急に対応している。

教職員、法人、専門機関との連携による危機管理マニュアルの作成

昨年度の学校評価の課題として、危機管理マニュアルの作成があげられていた。そこで、今年度は危機管理マニュアルを独自で作成した。しかし、法人、専門機関との話し合いが持っておらず、完全なものではなく、保育者全体に周知徹底できていない。

評価・分析（アンケート結果を含む）

事故や緊急事態発生時の適切な対応

94.7%（19人中18名）の保育者が、肯定的な回答をするほど対応意識は高い。また、96.8%の保護者が肯定的な回答をしていることから一定の信頼を得ているといえる。事故や緊急事態発生時には保育者全員のチームワークが大切であり、保育者全員が肯定的な回答ができるように努力する必要があると思われる。

学年別に比較してみると、保護者の否定的な回答は、年少組0.0%、年中組6.3%、年長組1.9%である。この学年の差異の原因を探る必要がある。

園内環境の安全点検

昨年度と同様、保育者全員が保育前の園内環境の安全点検について「強くそう思う」と回答している。これは、子どもたち、保護者の安全を第一に考えている意識の表れであると考えられる。

昨年度、保育者と保護者のアンケート結果にわずかな差異があったことの改善策として、「本園の安全管理の考え方を保護者に理解していただく機会が必要である」を挙げ、今年度努力してきた。その結果として、わずかながら数値が高く（94.0% 96.9%）なったと考えられる。

学年別に比較してみると、保護者の否定的な回答は、年少組0.0%、年中組7.9%、年長組0.0%である。この学年の差異の原因を探る必要がある。

教職員、法人、専門機関との連携による危機管理マニュアルの作成

昨年度の改善策として、今年度、聖和幼稚園独自の危機管理マニュアルを作成したことから、保護者の否定的な回答はごくわずかであった。しかし、若干名がなお「あまりそう思わない」と回答していることから緊急マニュアルの周知が必要である。

改善の具体的方策

事故や緊急事態発生時の適切な対応

聖和幼稚園では、今後も危機管理意識を高めて備えていきたいと考えている。火災・地震を想定した避難訓練を実施し、また、教職員自身が、様々な緊急事態を想定し、どのように行動すべきなのかを考える機会を設けていく。

園内環境の安全点検

今後も安全を第一に考えている意識をさらに高めて、安全な環境の保持に努めていきたい。また、今年度同様、聖和幼稚園の安全管理の考え方を保護者に理解していただく機会が必要である。

教職員、法人、専門機関との連携による危機管理マニュアルの作成

今年度は、聖和幼稚園独自の危機管理マニュアルを作成したが、来年度は、専門機関と連携をし更に危機管理マニュアルを充実したものにしていこう。

学校関係者による評価

事故や緊急事態、登降園時の対応などについては、以前より配慮が行われていることが評価できます。

幼稚園の庭は、構造的に管理の難しさをかかえています。保育者が協力し合いながら安全管理に努め、それによって子どもに創造的で活動的な遊びを提供できていることが大変評価できます。

危機管理マニュアルの充実、及び様々な危機管理・安全教育に関する研修会への参加など、より積極的な方策が望まれます。

大学に隣接する園として多くの外部者が出入りする中、安全管理を心がけ、具体的な問題点を指摘していることが評価できます。また、昨年度の評価・分析を受け、危機管理マニュアルを手がけており、改善が進展していると思われます。

専門機関との話し合いを行ない完全なマニュアル作成を期待しますが、マニュアル作成途中であっても、そのつど、保育者全体が周知徹底し、子どもの安全を図ることを望みます。具体的な方策の中で、教職員が考える機会、保護者に理解していただく機会については、具体的な方法を示されることが期待されます。

安全確認、緊急時対応、危機管理には幼稚園の場合、保育者の日常的な関心と意識及び対応能力の向上が必要なところと思います。十分な体制をとっているようですが、さらに努力を続けることが期待されます。マニュアルの充実とともに、基本の確認を続けることが良いように思います。

他の項目と比較して、危機管理マニュアルに関する項目の評価が低いですが、危機管理という言葉そのものへの理解が不足している可能性があり、アンケートの質問を検討する余地があると思われます。

災害等に対する防災訓練を実施予定とのことですが、年中行事に組み入れることが望まれます。

防犯管理に関しては、園長、副園長並びに警備員と連携し防犯に努めていることを評価します。門扉の施錠状況はいかがでしょうか。また、防犯カメラや赤外線センサー等の設置状況はいかがでしょうか。

個人情報保護の観点からの研修の実施状況はいかがでしょうか。

2Fからの緊急時の誘導はどのように想定しているのでしょうか。

安全管理に気を配られ体制が整えられています。

「改善の具体的方策」においては、特に、学年の差異の原因を探ること、マニュアルの周知などは具体策が必要でしょう。「考える機会を設けていく」では具体的とは言えません。

学校関係者による評価を受けての追加記述

学校関係者による評価を受けて、現状の説明、改善の具体的方策を追加記述します。

< 現状の説明 >

今年度は、保育室活動中の火災を想定した避難訓練、園庭で外遊び中の地震を想定した避難訓練を実施している。

防犯管理に関して門扉の施錠は、1学期はしているが、2学期以降は地域の子どもたちへの園庭解放、保護者会活動等で人の出入りがあるので、施錠はしていない。しかし、防犯カメラは設置しており、人の出入りに関しては職員室のモニターで見ることができ、録画データを保存している。その他2ヶ所に防犯カメラを設置し、映像を保存している。個人情報保護の観点からは年度当初に話し合っている。

2階からの避難誘導は、状況に応じて対応できるようにしているが、保育者が子どもの前後に立ち2ヶ所の階段から避難することになっている。

< 改善の具体的方策 >

門扉の施錠に関しては、今後、オートロック方式（職員室で操作できるもの）に変えるかどうか検討する。

アンケートの文言を理解しやすいものに変えることを検討する。

危機管理・安全教育に関する研修会・冊子等の情報の入手、参加をしていく。

保育者に関しては、年度当初には、危機管理・安全教育に関して話し合いを持ち、毎朝、気になる点については情報の共有をしており、また、避難訓練の前にも再確認しているが、学期ごとの確認、話し合いを持っていく。また、保護者に関しては、入園前、年度当初には現状の危機管理について話しているが、それ以外にも伝達していく時を設ける。

学年の差異を探る手段として、アンケートの質問項目を検討する。

学校評価シート

【教育環境整備】

現状の説明

設備整備

聖和幼稚園は、園児の興味、関心、適切な育ちに応じて活動や体験ができるように考え、設備を整備している。今年度は、施設課と相談し、トンネル遊具を設置している。

年度初めには、小屋、雲梯、丸太の壁などに保育者が柿渋を塗り、砂場の砂を補充している。

日々、保育者が施設設備、遊具等の点検を行い、聖和キャンパス事務室と連絡をとり、随時修理している。また、聖和キャンパス事務室、施設課と相談し、園舎のクラック、デスク、遊具の雲梯の支柱、丸太の壁、ハンモック、ロープ遊具のロープの取り換え等大きな補修、修理をしている。

遊具・教材の充実

聖和幼稚園では、日々遊具・教材の研究をしている。そして、園児の育ちに応じて必要である遊具・教材は教師会で検討し購入している。また、遊具が壊れ、使用不可になった場合も随時買い替えている。教材は不足した場合は、随時補充している。

教職員の教育・研究環境の整備

聖和幼稚園では、園長・副園長が検討し、保育者に必要と思われる研修に、また、保育者自身の研究テーマにそって研修に参加している。また、日本保育学会、日本乳幼児保育学会での発表、参加、兵庫県私立幼稚園協会での教育研究発表を行っている。園内においては、夏期休暇中、世界の幼児教育について、各保育者が調べ、発表している。

評価・分析（アンケート結果を含む）

設備整備

保育者全員が「適切な教育環境を整えている」と、肯定的な回答をしており、特に、18名(19名中)の保育者が、強く感じている。「環境設備の点検、整備を適切に行っているか」という質問では、保育者全員が、同様に肯定的な回答をしているが、「強く感じている」と回答した保育者が15名である。点検、整備となると少し苦手と感じるなど、保育者一人ひとりの意識の違いによるものと考えられる。

97.5%の保護者が「適切な教育環境を整えている」と、また、96.8%の保護者が「教育環境設備の点検、整備を適切に行っている」と肯定的な回答をしており、聖和幼稚園の教育環境の充実、教育環境設備の点検、整備を適切に行っていることへの信頼が数値に表れていると考えられる。

遊具・教材の充実

保育者が、日々意識を持ち遊具・教材研究していることが、保育者全員の肯定的な回答結果として表れている。そして、98.1%の保護者が肯定的な回答をしており、保育者の日々の努力の結果と考えられる。

教職員の教育・研究環境の整備

特に、今年度は保育者が自分で研究テーマを持ち、積極的に学会、研修に参加したことや、園内研修も計画的に行ったことが保育者全員の肯定的な回答結果として表れていると考えられる。

改善の具体的方策

設備整備

今後も法人との連携を円滑に行い、施設整備の安全、維持管理、充実のために点検、整備、拡充を図る。

遊具・教材の充実

今後も保育者の遊具・教材研究を継続し、園児の発達に応じた遊具・教材を充実させる。
教職員の教育・研究環境の整備
保育者の教育・研究環境の更なる充実を目指し、保育の質の向上を図る。

学校関係者による評価

園庭の遊具に関しては、創造的な遊びが安全に行われるような遊具の設置・管理が保育者の協力のもとに行われていることが評価できます。

保育室の教育環境は、クラスの子どもの年齢や発達などを考慮して行われますが、同時に、保育者の保育観やセンス、経験など様々な要素が表れるところでもあるので、クラス担任自身の研究とともに指導的立場の保育者による助言も必要かと思われま

す。聖和幼稚園においては、保育者が研究的態度を有していることが望めます。個人だけでなく、園内・園外における園全体のテーマに基づいた単年度、あるいは数年にわたる継続的な研究を行うことが求められます。それによって、保育者や保育の質の向上が図られるとともに、より客観的な評価の材料としても役立てられると思われま

す。設備整備、教材準備に保育者全員が取り組み、教育環境を整えていることが大変評価されます。

昨年の課題を受け、保育者が自らの課題を定め研究に取り組んでおり、改善が進んでいます。研究、学習して得た知識・技術を他の保育者と共有し、保育現場にどのように生かしていくか等、今後の方策検討が期待されます。

昨夏行なった研究発表会の成果の評価・分析より、次年度への課題設定につなげることが望めます。

設備、遊具、教材については、わずかですが、保育者と保護者の間で評価に違いがあるようにも見えます。保護者からこれらについて意見を聴く機会があれば、違いがあるかどうか分かるかもしれません。

絵本などの図書および図書室、AV機器、IT機器などは教育環境整備の評価項目の範囲内でしょうか。範囲内とするならば記載が必要ではないでしょうか。

自然環境の中に遊び場があることは特色で、好ましいと思います。そして安全上重要な遊具等のメンテナンスはしっかりと行なわれているようで好ましいです。

まず現状説明において、どのような設備・備品を有しているかを説明する必要があります。その上で、各種特記事項を説明されてはどうでしょう。

本項目は保育者、保護者の評価が高く、改善点は無いのかもしれませんが、短期的な目標だけでなく、中期的な目標を設定し、改善を計画的に進めていく必要はないでしょうか。

学校関係者による評価を受けての追加記述

学校関係者による評価を受けて、現状の説明、改善の具体的方策を追加記述します。

<現状の説明>

保育室の教育環境については、必要に応じて、園長、副園長、主任が助言を行っている。次年度は個人研究に加えて、園全体で一つのテーマで進めていけるように、保育者でテーマを話し合っている。

遊具、絵本、設備、備品等は備品登録、用品登録を行い管理している。

<改善の具体的方策>

教師会にて研修会、学会、研究について、他の保育者に伝える機会を設けているが、保育現場にどのように生かしているか教師会で検討していく。

月1回の保護者会役員会で、設備、遊具、教材なども含め幼稚園の保育について話し合い

を持っているが、役員だけではなく担任を通じて幅広く意見を聴く時を設け、評価の差異を探る。

どのような遊具、絵本、設備、備品を有しているかの説明については、評価情報分析室と今後検討していく。

教育環境整備の中・長期の目標、計画は法人と相談していく。

学校評価シート

【子育て支援】

現状の説明

○園庭開放

聖和幼稚園では、近隣の子どもたちの遊び場事情を鑑みて、下記の子育て支援事業と朝と保育後の園庭開放を行っている。

①わくわく幼稚園

(内容) 在宅幼児を小学校教育へ円滑に移行させるため、私立幼稚園の施設を利用し、従前の園事業に加え、園児と同等の専門的な幼児教育を計画的に実施する。

(対象) 就学前の在宅幼児(満3歳～5歳)

②せいわこどもの園

(内容) 体験幼児教育、親に対する子育て教育

(対象) 2歳児親子、3歳児親子

③病児保育・ゆりのき組

(内容) 心臓疾患の子どもを対象に月2回程度の保育を行う。

(対象) 3歳～5歳児の心臓疾患の子どもとその保護者

④地域の子ども(未就園児)への園庭開放

(内容) 9時～10時と保育後～17時まで親子で園庭で遊ぶ。8月は10時～15時。

(対象) 未就園児とその保護者

⑤地域の小学生への園庭開放

(内容) 保育後～17時まで小学生に遊び場として園庭を開放する。8月は10時～15時。

(対象) 小学生

○子育て・発達相談

聖和幼稚園では、登降園時保護者が送迎することになっているので、保育者と保護者が直接に顔を合わせて話し合いの時間が持てるようになっている(登園時は連絡事項程度)。保育者は、この時間に保育中の子どもの様子を伝えたり、家庭での様子について伺ったりと、保護者と子育て、教育に関するコミュニケーションをとっている。この連携は、良い子育て、教育の鍵となる事柄として重要視している。

現在、保護者からの申し入れがあれば、担任、補助教諭、園長、副園長と子育て・発達相談できるようにしている。また、発達相談においては、専門的な視点で相談できる臨床心理の専門家に指導をお願いしており、保護者からの希望があれば園を仲介して相談することが可能になっている(臨床心理の専門家は、月3回来園)。

評価・分析(アンケート結果を含む)

○園庭開放

保育者全員が肯定的な回答をし、高く評価しており、97.5%の保護者も肯定的な回答をしている。また、未就園児、近隣の小学生以下の子どもの保護者からも問い合わせの電話があり、この園庭開放の注目度の高さをうかがい知ることができる。肯定的な回答は、昨年度より更に数値が高くなっている(93.0%→97.5%)。

保育者と保護者が高く評価している要因は、園が考えている保育後の子どもの過ごし方と保護者の保育後の外遊び環境のニーズが一致したからであると考えられる。

○子育て・発達相談

保護者のアンケート結果は、肯定的な回答が83.6%に留まっている。しかし、保育者のアンケート結果は、全員が肯定的に回答をしており、保育者はいつでも相談できる体制を整えていると思っている。この差異を縮めるよう保育者の努力が必要であるとする。

「いつでも子育て・発達相談ができる」の「強くそう思う」と回答した学年ごとの推移

は年少組 21.4%→年中組 32.8%→年長組 44.2%と上昇している。これは、学年が上がるごとに、保護者が園・保育者に慣れ、気軽に相談できていくと考えられる。

改善の具体的方策

○園庭開放

今後も近隣の子どもたちの遊び場事情を考えて園庭開放を継続し、預かり保育を実施していく。

○子育て・発達相談

子育て・発達相談は園長、副園長が相談窓口となること、また、臨床心理の専門家が月3回来園し、子育て・発達相談ができることをクラス担任から、掲示板等で伝達し、保護者が気軽に発達相談しやすい環境を整えていく。

学校関係者による評価

○近隣の様々な子どもを対象として園庭開放が行われ、幼稚園が地域社会の子育て支援の一端を担っていることは大変評価できます。

○子育て・発達相談について、保護者がどれだけの必要性を感じているのか、どのような内容についての相談が求められているのかについて把握する必要があると思われます。その上で、実際の保護者のニーズにあった対応が期待されます。

○子育て支援に関連して、保護者や地域住民との協力・連携についても考えていかれると良いのではないかと思います。

○昨年度改善の具体的方策を受け、園庭開放の企画実践を図られたことが大変評価されます。本校の自然教育の実践が順調に進展しています。

○子育て支援事業内容が充実し、預かり保育の担当者を配置していることなどが大変評価されます。

○現状の説明で、園庭開放として表記している①②③の支援事業の内容は園庭での活動にとどまらないと思います。記載の方法に工夫が必要かと思われます。④⑤に関しては、雨天時の場合はどのようにしているか現状を説明することが望まれます。

○発達相談では、専門家の来園回数が増え、保護者が利用しやすい環境が整えられていることが評価されます。広報の徹底を期待します。

○アンケートの結果より、「いつでも相談できる」という肯定的な回答に、保護者と保育者の差異をどのように縮めていくか具体的な方策を示されることを望みます。年齢の低い子どもの保護者が相談しにくい状況を整理して、園全体で具体的な方策を検討されることが期待されます。

○適切な点検評価が行われています。子育て・発達相談は重要であり、今後とも改善が進むことが期待されます。

○園庭開放は保護者からも評価されており、順調に運営されていると思います。子育て・発達相談は、保護者からの期待があると思います。アンケート結果からもそれがうかがえるように思います。家庭での子育ての重要性、発達障害に関する関心と知見の深まりを考えると、さらに充実していくことが望まれます。

○子育て・発達相談に関してはインターネットを活用し、保護者や地域住民と子育てに関する情報交換や相談に対応できる「子育て情報ネットワーク」を構築することも有効ではないでしょうか。

○子育て支援に特化した施設・設備の整備状況はあるのでしょうか。あるようでしたら、その整備状況はいかがでしょうか。

学校関係者による評価を受けての追加記述

学校関係者による評価を受けて、現状の説明、改善の具体的方策を追加記述します。

<現状の説明>

- ①わくわく幼稚園は、原則園庭での活動としているが、②せいわこどもの園が行われるときには、共に活動している。
- ②せいわこどもの園は、幼稚園のホールで歌、絵本、紙芝居、製作等をしたり、おやつを食べたり、園庭で外遊びをしている。
- ③病児保育・ゆりのき組は、幼稚園図書コーナーで室内活動を行い、園庭で外遊びをしている。
- ④地域の子ども（未就園児）への園庭開放、⑤地域の小学生への園庭開放は雨天時は実施していない。
- 保護者会活動として、臨床心理の専門家を招いて「子育てを考える会」を年 2 回行っている。事前に子育てに関する相談事項を記入し提出していただき、会を進めている。
- 保育者は、臨床心理の専門家から子どもの育ちについて、保護者の対応について学んでいる。

<改善の具体的方策>

- 子育て・発達相談については、子どもの育ち、保護者のニーズ、効果のある方法等、適切な方策を今後検討していく。

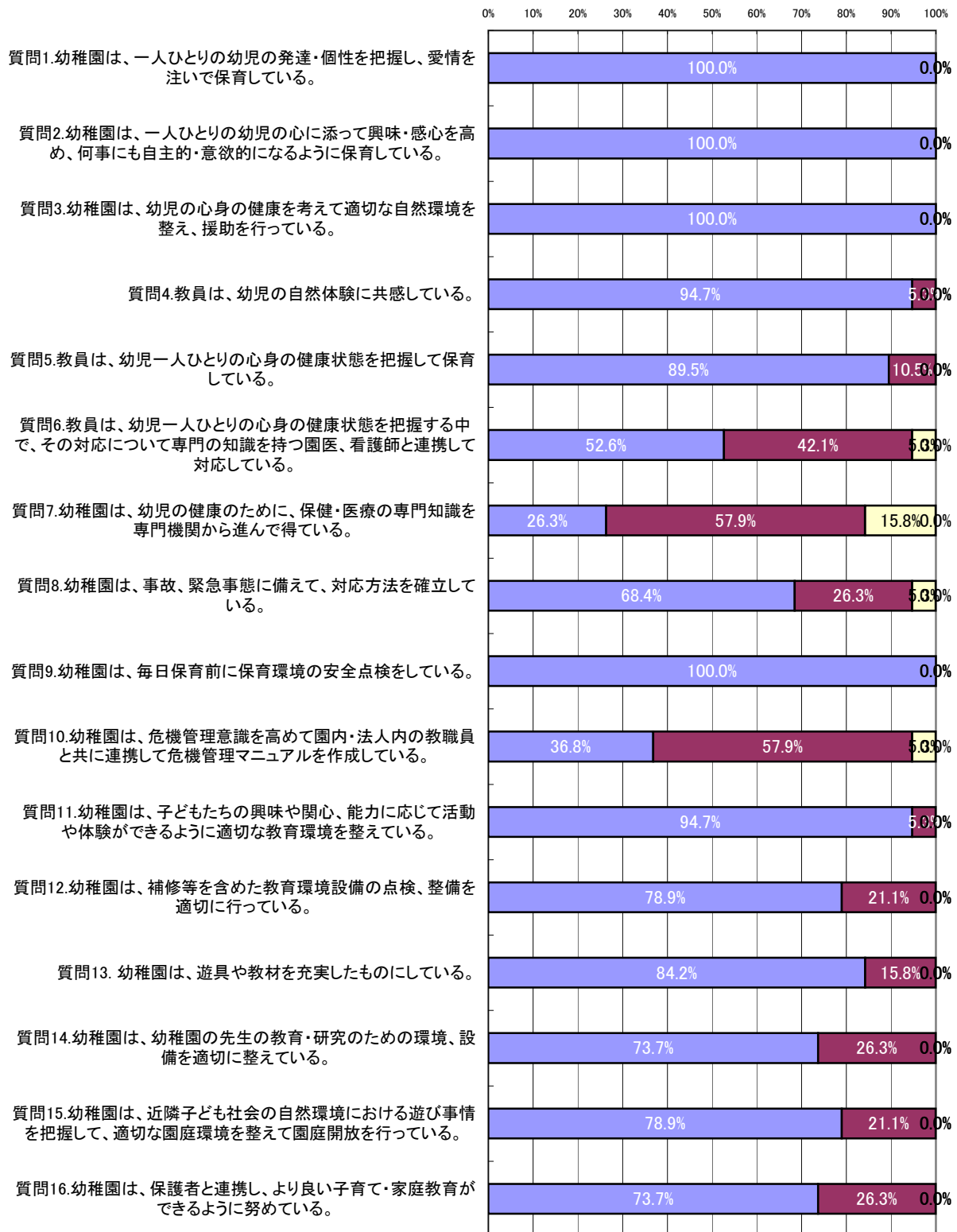
2010年度 学校評価アンケート結果一覧表（聖和幼稚園）

共通 / 独自	大項目	小項目	目標	アンケート			
				教職員用	平均点	保護者用	平均点
共通	幼稚園全般 (追加項目)			—	—	1. 子どもは、幼稚園に行くのが楽しいと感じている。 2. 幼稚園の教育に満足している。	3.7 3.6
共通	1. 教育課程・指導	キリスト教教育の根幹である愛情を感じられる教育の実践	一人ひとりの幼児の発達・個性を把握して、子どもたちが愛されていると感じられる保育をする	1. 幼稚園は、一人ひとりの幼児の発達・個性を把握し、愛情を注いで保育をしている。	4.0	3. 幼稚園は、子どもたち一人ひとりを受け止めて保育をしている。	3.5
		各領域に主体的に取り組む姿勢を培う援助	幼児が自律的な精神を養い、何事においても意欲的に取り組めるように援助する	2. 幼稚園は、一人ひとりの幼児の心に添って興味・感心を高め、何事にも自主的・意欲的になるように保育している。	4.0	4. 幼稚園は、子どもたちの意欲や主体性を育む保育をしている。	3.7
		自然教育の実践重視	幼児が幼稚園の自然環境の中で、存分に遊ぶことで健康な心身を養うように環境を整え、援助を行う。	3. 幼稚園は、幼児の心身の健康を考慮して適切な自然環境を整え、援助を行っている。	4.0	5. 幼稚園は、子どもたちの心身の健康を考慮して自然環境を備えている。	3.8
			幼児が自然物に触れて豊かに感性を育むように環境を整え、援助を行う。	4. 教員は、幼児の自然体験に共感している。	3.9	6. 幼稚園は、子どもたちが身近に自然環境に触れられるようにして、感性が育まれるように保育している。	3.9
共通	2. 保健管理	日常の健康管理、疾病予防の取組	幼児一人ひとりの健康状態を把握し、また、疾病予防の指導を行う。	5. 教員は、幼児一人ひとりの心身の健康状態を把握して保育している。	3.9	7. 幼稚園は、子どもたちの心身の健康状態を把握して保育している。	3.3
		園医、看護師との連携による健康管理、疾病予防の取組	保育者の対応できない怪我、疾病等について園医、看護師に相談して最善の対応をする。	6. 教員は、幼児一人ひとりの心身の健康状態を把握する中で、その対応について専門の知識を持つ園医、看護師と連携して対応している。	3.5	8. 幼稚園は、園医、看護師と連携して子どもたちの健康管理、疾病予防に努めている。	3.2
		家庭、地域、保健・医療機関との連携による健康増進	流行性の疾病等について専門機関と連携をして、正確な情報を得て、園児・保護者に対応する。	7. 幼稚園は、幼児の健康のために、保健・医療の専門知識を専門機関から進んで得ている。	3.1	9. 幼稚園は、医療専門機関からの情報公開・伝達等をしている。	3.1
共通	3. 安全管理	事故や緊急事態発生時の適切な対応	園に關係する事故や緊急事態に対応できる備えをする。	8. 幼稚園は、事故、緊急事態に備えて、対応方法を確立している。	3.6	10. 幼稚園は、事故や緊急事態に適切な対応をしている。	3.3
		園内環境の安全点検	子どもたちの活動について把握し、その活動範囲の安全点検を確実に行う。	9. 幼稚園は、毎日保育前に保育環境の安全点検をしている。	4.0	11. 幼稚園は、子どもたちの安全を考慮して遊具等の環境を整えている。	3.5
		教職員、法人、専門機関との連携による危機管理マニュアルの作成	幼稚園の危機管理マニュアルを、教職員、法人、専門機関と連携して作成する。	10. 幼稚園は、危機管理意識を高めて園内・法人内の教職員と共に連携して適切に危機管理マニュアルを作成している。	3.3	12. 法人・幼稚園は、危機管理意識を持ち、マニュアルをもって子どもたちの安全を守っている。	3.3

2010年度 学校評価アンケート結果一覧表（聖和幼稚園）

共通 / 独自	大項目	小項目	目標	アンケート			
				教職員用	平均点	保護者用	平均点
共通	4. 教育環境整備	設備整備	法人と連携し、施設設備の安全、維持管理、充実のために点検、整備、拡充する。	11. 幼稚園は、子どもたちの興味や関心、能力に応じて活動や体験ができるように適切な教育環境を整えている。	3.9	13. 幼稚園は、子どもたちの興味や関心、能力に応じて活動や体験ができるように適切な教育環境を整えている。	3.6
				12. 幼稚園は、補修等を含めた教育環境設備の点検、整備を適切に行っている。	3.8	14. 幼稚園は、補修等を含めた教育環境設備の点検、整備を適切に行っている。	3.5
		遊具・教材の充実	法人と連携し、子どもの育ちに適した遊具・教材を充実させる。	13. 幼稚園は、遊具や教材を充実したものにしている。	3.8	15. 幼稚園は、遊具や教材を充実したものにして	3.6
		教職員の教育・研究環境の整備	法人と連携した教職員の教育・研究のための環境を充実させる。	14. 幼稚園は、幼稚園の先生の教育・研究のための環境・設備を適切に整えている。	3.7	—	—
独自	子育て支援	園庭開放	近隣の子ども社会の自然環境における遊び事情を鑑み、園庭開放を行う。	15. 幼稚園は、近隣子ども社会の自然環境における遊び事情を把握して、適切な園庭環境を整えて園庭開放を行っている。	3.8	16. 幼稚園は、子どもたちの遊び事情を考えて園庭開放を行っている。	3.7
		子育て・発達相談	子育て・家庭教育における相談、発達相談を随時受けられる体制を整える。	16. 幼稚園は、保護者と連携し、より良い子育て・家庭教育ができるように努めている。	3.7	17. 幼稚園は、いつでも子育て・発達相談ができる。	3.2

2010年度 学校評価アンケート集計結果
(幼稚園・教員)



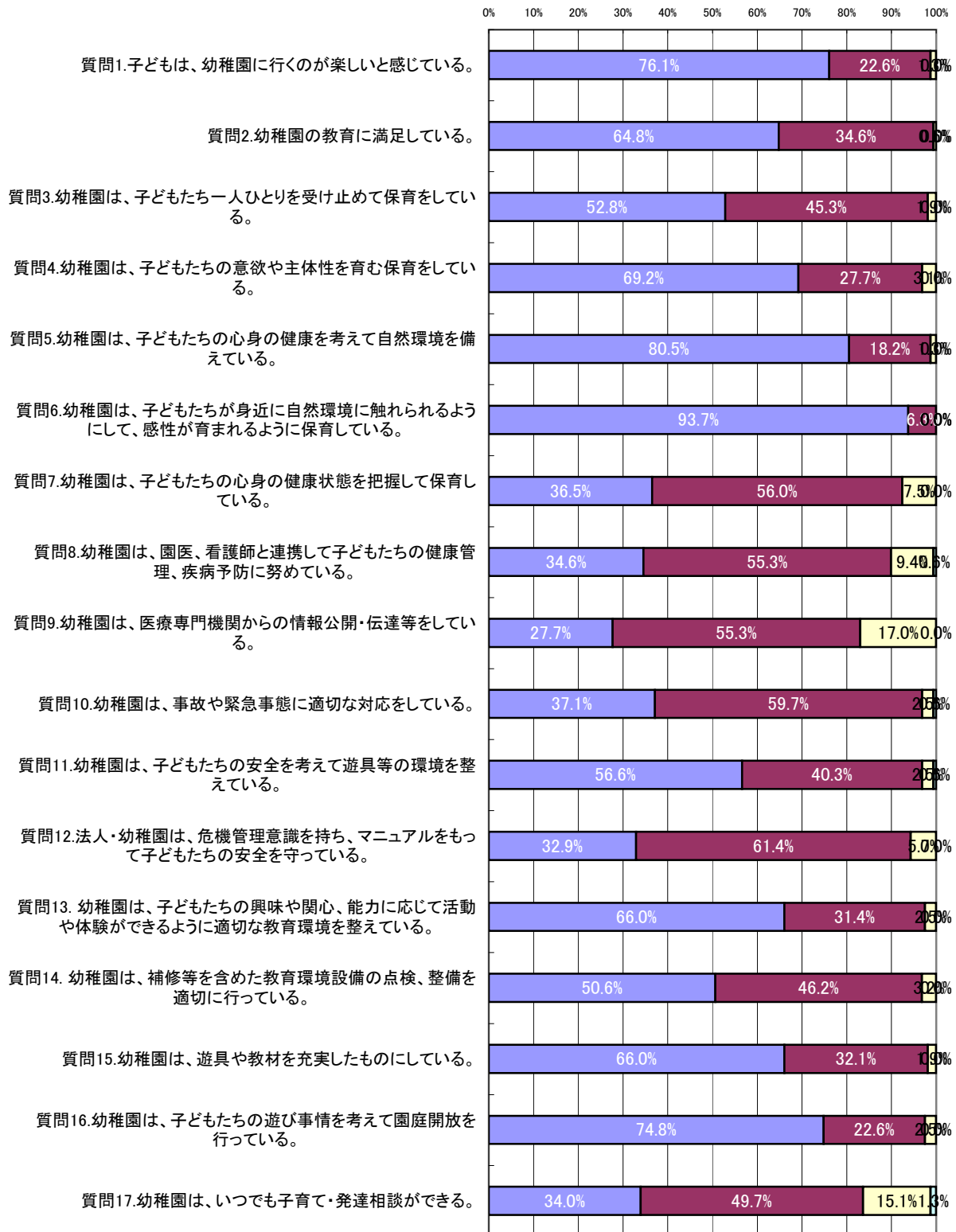
■ 回答番号1: 強く思う(4点)

■ 回答番号2: どちらかといえば思う(3点)

□ 回答番号3: あまりそう思わない(2点)

□ 回答番号4: まったくそう思わない(1点)

2010年度 学校評価アンケート集計結果
(幼稚園・保護者)



■ 回答番号1: 強く思う(4点)

■ 回答番号2: どちらかといえば思う(3点)

□ 回答番号3: あまりそう思わない(2点)

□ 回答番号4: まったく思わない(1点)